

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

# 報 告 書

プログラム名	博物館等との連携によるプレゼンテーションスキル育成プログラム
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>・連携先機関である博物館等の展示物についての取材や調査、プレゼンテーション資料作成、実施、及び相互評価等を行うことを通して、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、コラボレーション能力、課題発見能力、課題解決能力等の育成を図る。</li><li>・一人一台のタブレット型端末を活用して、プレゼンテーション資料の素材収集やプレゼンテーション用スライドショーの作成を行うことにより、ICT活用能力の育成を図る。</li><li>・様々な連携先機関での実施が可能な教員研修のプログラムであると同時に、児童生徒の博物館等における学習活動での活用も図れ、博物館等の教育への貢献及び来場者数増加にも寄与するプログラムである。</li></ul>

平成25年3月

機関名：埼玉県立総合教育センター 連携先：鉄道博物館

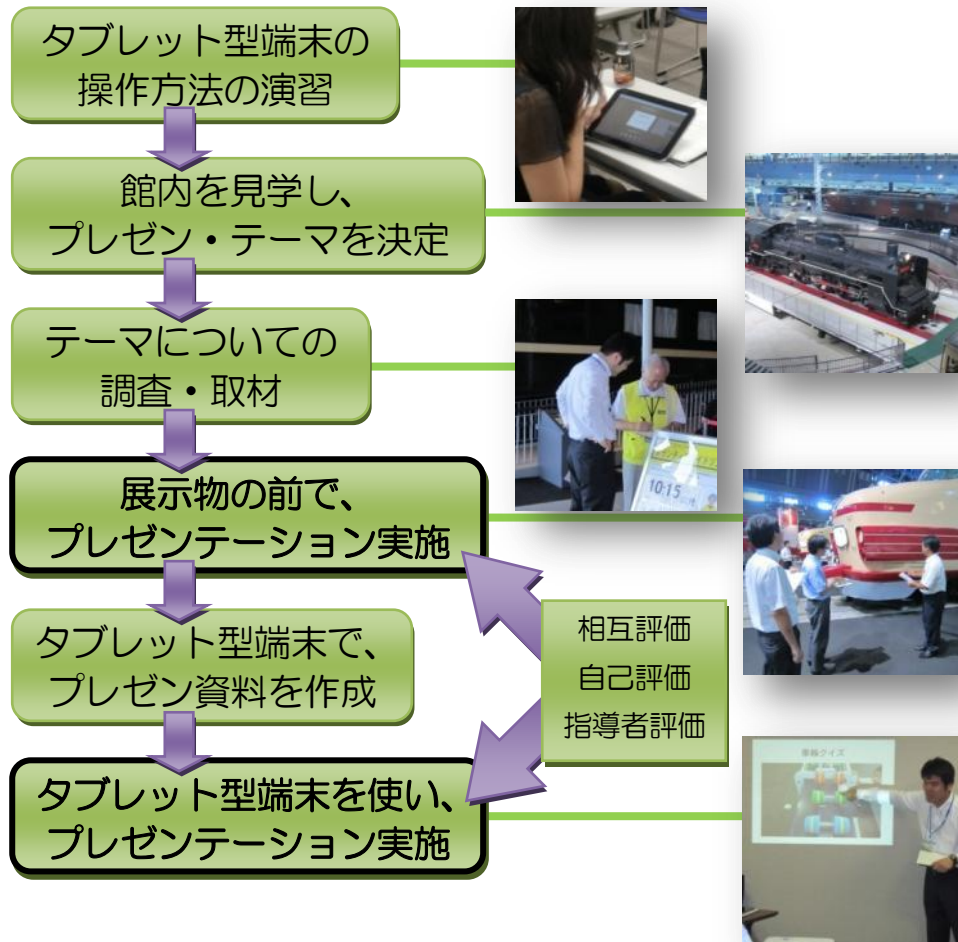
# プログラムの全体概要

## 研修のねらい

- プレゼンテーション能力
- ICT活用能力
- コミュニケーション能力
- コラボレーション能力
- 課題発見・課題解決能力

授業力の向上

## プレゼンテーションスキル育成プログラム



## I 開発の目的・組織

### 1 開発目的

2009年におけるPISA調査の結果から、「情報を取捨選択、編集する活用能力について押し上げる必要がある」とされている。このことより、今後求められる人材は、国をまたがりコミュニケーションを図り、問題を思考・判断、解決するために協働する力等をもつ人材である。特に「問題解決能力」や「コミュニケーション能力」等は、21世紀をよりよく生きるために、児童生徒に身に付けなければならない能力であり、教員にそれらの能力を指導する力を育成することが急務である。埼玉県においては、「授業中にICTを活用できる教員」の割合（「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」文科省・平成23年度）が、小学校69.0%、中学校63.0%、高等学校75.4%と、全国平均をやや上回る数値であるものの十分とは言い難い実態であり、教員のICT活用能力の向上は、教員の指導力向上のためにも欠くことのできない課題であると捉えている。

当研修プログラムは、博物館や研究機関等（以下「博物館等」という。）において、興味のある展示物について、研修受講者同士で行うプレゼンテーションが中心の活動である。プレゼンテーションを行うに当たり、展示資料や図書資料等を活用した情報収集や説明員（博物館の学芸員等）への取材を行い、プレゼンテーション資料を作成する。そして、1回目のプレゼンテーションとして、一般に公開されている展示物の前で、各自がプレゼンテーションを実施し、相互評価等を行う。次に、各自に貸与したタブレット型端末を使用してプレゼン資料の収集及び作成を行い、会議室等で2回目のプレゼンテーション及び相互評価等を実施する。

当研修プログラムの目的は、以下の能力を向上させ、教員の指導力向上を図ることである。

#### ○課題発見、課題解決能力

- ・限られた時間の中で、資料の作成とプレゼンテーション実施という課題を解決する過程において育成する。
- ・展示物の中から、自分が興味のあるものを見つける活動、また、調査する中で生じた新たな疑問を追求し、解決する過程において育成する。

#### ○プレゼンテーション能力

- ・展示物前でのプレゼンテーション及びタブレット型端末を利用したプレゼンテーションを通じて育成する。

#### ○コミュニケーション能力、コラボレーション能力

- ・相手に伝わるプレゼンテーションを目的として実施する過程において育成する。
- ・研修受講者のグループ間での相互評価活動、博物館等の説明員へのインタビューする活動を通じて育成する。

#### ○ICT活用能力

- ・タブレット型端末を利用したプレゼンテーション資料の収集と作成及びプレゼンテーションの実施を通して育成する。

これらの能力は、21世紀社会を生きる児童生徒たちに必要なスキルの一部であると捉える。指導する教員が、これらの能力を体験を通じて身に付けることは、教員の「高度専門職にふさわしい生涯職能成長の実現」を支える基礎的な資質と能力の向上につながる。

当研修プログラムは、埼玉県教育委員会が連携・協力を行ってきた鉄道博物館をはじめとする各機関での研修が可能であり、多様な教材を題材として研修を実施できる。教員研修のみならず、児童生徒たちの博物館等での校外学習における学習プログラムとしての活用も可能である。

## 2 開発の方法

### (1) 先行的プログラムの体験的实施

当研修プログラムは、日本科学未来館の「来館プログラム」を参考にした。「来館プログラム」では、プログラム受講生が、興味のある展示物について調査を行い、展示物前でプレゼンテーションを実施するものである。(現在「来館プログラム」は実施していない)

#### ア 日本科学未来館「来館プログラム」の体験【平成23年12月27日(火)】

埼玉県立総合教育センターの指導主事等4名で日本科学未来館の「来館プログラム」を体験的に実施した。各指導主事に担当する展示ブースを割り当て、その中で各自が興味を持った展示物について調査し、展示物前でプレゼンテーションを実施した(調査時間60分、プレゼンテーションの持ち時間3分)。

#### イ 日本科学未来館でタブレット型端末を利用したプレゼンテーション研修の試行実施

【平成24年2月1日(水)】

埼玉県立総合教育センターの指導主事等6名が、日本科学未来館にて、持参したタブレット型端末を活用しプレゼンテーション研修の試行的な実施を行った。タブレット型端末で写真や動画等撮影し、科学ボランティア(説明員)へのインタビュー、プレゼンテーション資料作成ソフトでのスライドづくりを行い、プレゼンテーションを実施した。

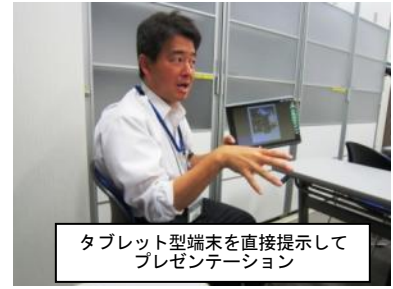


日本科学未来館での研修プログラムの試行的実施を通して、教員の授業力向上に資する多くの能力を育成できると実感した。

- ・限られた時間内でプレゼンテーションの作成、短時間でその展示物の特徴等を分かりやすくかつ興味が深まるよう伝えるという課題から、課題発見能力、課題解決能力が培われる。
- ・自分の伝えたいことを短時間で分かりやすく伝えるという課題により、プレゼンテーションに重要なポイントを学ぶことができる。
- ・相互評価を行うことにより、自分のプレゼンテーションの実態を客観的に把握できるだけでなく、評価者として他者を評価する活動より、自然に自己評価が深まり、プレゼンテーションの能力が向上するとともに、協働的な活動からコラボレーション能力が育成される。
- ・研修受講者だけでなく、一般の来場者の前でのプレゼンテーションの実施は、緊張感があり、プレゼンテーション実施後の達成感がある。
- ・教科等の指導において言語活動が重視される中、児童生徒に「話したいこと」「伝えたいこと」を持たせることの重要性を体験的に認識できる。
- ・タブレット型端末を活用することにより、タブレット型端末の長所(携帯性、資料収集、加工、作成、提示の機能がオールインワン等)を体験的に理解でき、今後の授業におけるタブレット型端末の活用に対して積極的に取り組むことができる。

(2) 鉄道博物館での研修プログラムの試行実施【平成24年6月7日（木）】

さいたま市大宮区にある鉄道博物館にて、タブレット型端末を活用したプレゼンテーション研修を、4名の指導主事で試行実施した。



(3) 鉄道博物館との連携

平成24年3月14日、埼玉県立総合教育センターと鉄道博物館で「教員研修並びに教材開発等における連携・協力に関する覚書」を取り交わした。鉄道博物館とは、これまでも様々な連携と協力を行ってきたが、覚書の調印により、さらなる連携・協力の体制が整った。



平成24年度には、当プログラムの実施以外にも、「工業高校生による『レールウェイロボット学校』」「工業高校生がつくる鉄道展」「夢の電車イラストコンテスト」などの連携事業を行ってきた。

(4) 高等学校教員の年次研修での実施

平成24年度は、高等学校年次研修の教科別研修において、情報、工業、商業、農業の教員を対象に当研修プログラムを実施した。(研修の様子等については後述)





(5) その他の研修での実施

理数系教員志望の大学生等を対象とした「科学プレゼンテーション研修」として、当研修プログラムを実施した。



3 開発組織

No	所属・職名	氏名	担当・役割
1	鉄道博物館 営業部 課長	葛西 寅彦	博物館側の研修実施運営上の窓口
2	教育局高校教育指導課 指導主事	山本 哲也	高校研修対象者について総合教育センターとの連絡・調整
3	教育局義務教育指導課 指導主事	加賀谷 徳之	小中学校研修対象者について総合教育センターとの連絡・調整
4	埼玉県立総合教育センター 主席主事	羽田 邦弘	総合教育センターで実施する研修全般を統括
5	埼玉県立総合教育センター 主任指導主事	清水 雅己	外部連携機関との連携事業の企画、運営、調整
6	埼玉県立総合教育センター 主任指導主事	出井 孝一	外部連携及び情報教育関係の研修事業の運営、調整
7	(前) 埼玉県立総合教育センター 指導主事	堀口 真史	研修事業の企画、運営
8	埼玉県立総合教育センター 指導主事	清水 励	研修事業の企画、運営 当研修プログラムの実施運営担当
9	埼玉県立総合教育センター 指導主事	川窪 慶彦	研修事業の企画、運営 高等学校年次研修の商業科担当
10	埼玉県立総合教育センター 指導主事	甲山 貴之	研修事業の企画、運営 高等学校年次研修の教科情報担当
11	埼玉県立総合教育センター 指導主事	寺田 貢紀	研修事業の企画、運営 高等学校年次研修の工業科担当
12	埼玉県立総合教育センター 指導主事	田中 克典	研修事業の企画、運営
13	埼玉県立総合教育センター 指導主事	小泉 学	研修事業の企画、運営
14	埼玉県立総合教育センター 江南支所 指導主事	秋田 格	研修事業の企画、運営 高等学校年次研修の農業科担当
15	埼玉県立総合教育センター 指導主事	鈴木 香織	研修事業の企画、運営 C S T事業の連絡、調整及び理科指導担当

研修実施に際しての打合せを、平成24年度に4回実施した。

打合せ実施日…5月27日、6月7日、7月3日、2月13日

打合せ場所……鉄道博物館

打合せ内容……研修の流れや借用施設の確認 等

## II 開発の実際とその成果

### 1 高校年次研修（情報・工業・商業・農業）での実施

#### (1) 研修の背景やねらい

埼玉県においては、「児童生徒の学力の向上」を学校教育における最重要課題として取り組んでおり、その実現には「教員の授業力向上」が欠かすことができない。教員が、授業において児童生徒と豊かなコミュニケーションを図り、プレゼンテーション能力を發揮しながら分かりやすく伝え、コラボレーションにより学びを深める学習活動を展開することは、教員の授業力向上に資する取組である。

各教科等において「言語活動の充実」を図った学習活動が、様々な学習過程、学習形態の工夫等により実施されているところである。言語は、知的活動の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、研修受講者が、当研修プログラムを通じて多くの言語活動を体験し、その重要性や指導の際に留意すべき点について学ぶこともねらいとしている。特に、発表や話し合い等を行わせる際に「私には伝えたいことがある」という状態にすることの大切さを体験的に学ぶことにより、今後の授業における児童生徒のより主体的な言語活動への関与させ方等について、工夫した学習活動の展開につながることを期待する。

タブレット型端末は、その携帯性、機動性、機能性等に加え低価格化が進み、普及が著しいICT機器であり、文部科学省・総務省の連携事業である「学びのイノベーション事業及びフューチャースクール推進事業」の研究推進校においても、児童生徒用の端末として先進的に導入され、その教育的効果について実践的に検証されている。タブレット型端末を、教員が教える道具として活用することは、授業においてICT活用が図られない原因の一つである「機器を準備するのに手間と時間がかかる」という点の改善も期待される場所である。授業中にICT機器を頻繁に利用する学校は、そうでない学校に比べて学力が高いという報告（平成19年度CEC「ICTを活用した授業の効果等の調査」）もあり、教員のICT活用能力の向上は、児童生徒の学力向上に直結する有効な手段である。

以上の背景やねらいを踏まえ、当研修プログラムの開発を行った。

#### (2) 実施研修の研修会名、実施日時、対象者、講師、日程等

研修会名	実施日時	対象者	人数
高校初任者研修	平成24年6月20日 9:00～16:30	高校初任者 (情・工・商・農)	18人
高校5年経験者研修	平成24年7月27日 9:00～16:30	高校5年経験者 (情・商)	9人
高校10年経験者研修	平成24年8月10日 9:00～16:30	高校10年経験者 (情・工・商)	11人

※実施場所は、さいたま市大宮区の鉄道博物館。

※講師は、JR東日本旅客鉄道株式会社総務部安全企画室、鉄道博物館営業部及び埼玉県立総合教育センター情報教育推進担当が担当。

平成24年度 高校初任研（工・商・農・情）日程表

日 程【6月20日（水）】	
9:00	受 付
9:15	開会行事・オリエンテーション
9:30	
10:30	<b>【講義】（60分）</b> 「鉄道の『安全』について」 東日本旅客鉄道（株）安全企画室
10:50	<b>演習 1</b> <b>【演習】（20分）</b> 「研修の流れの確認とタブレットPCの操作方法について」 県立総合教育センター 指導主事
12:00	<b>演習 2</b> <b>【演習】（70分）</b> 「プレゼンテーション演習①」 ～担当場所の自由見学とプレゼンテーションする題材（展示物）の決定～
13:00	昼 食
14:15	<b>演習 3</b> <b>【演習】（75分）</b> 「プレゼンテーション演習②」 ～ワークシートの作成とタブレットPCでの素材収集～
15:05	<b>演習 4</b> <b>【演習】（50分）</b> 「プレゼンテーション演習③」 ～各場所でのプレゼンテーションの実施と相互評価～ ※（発表3分—評価3分—移動4分）×5人
16:05	<b>演習 5</b> <b>【演習】（60分）</b> 「プレゼンテーション演習④」 ～タブレットPCでのプレゼンテーション資料の作成～
16:30	<b>演習 6</b> <b>【演習】（25分）</b> 「プレゼンテーション演習⑤」 ～タブレットPCによるプレゼンテーションの実施～ ※（発表3分—準備等2分）×5人
16:45	閉会行事・諸連絡

※上記日程表は、初任者研修の日程表である。参加人数によって、多少の日程調整が必要。  
 ※年次研修においては、鉄道会社の安全確保にたいする考え方や具体的な手立てを学ぶという観点から、講義「鉄道の安全について」という講義を設定している。



(3) 各研修項目の配置と考え方

- ・活動時間は、その活動を実施するために最低限必要と思われる程度で設定している。限られた時間の中で、見通しを持ちながら活動させ、計画的に課題を解決する能力の育成をねらっている。
- ・タブレット型端末の操作演習に関しては、活動の中で操作しながら覚えていくことを基本とし、基本的な操作方法の説明のみ行った。
- ・プレゼンテーションを行うテーマは、各研修受講者が最も関心をもった展示物から選ばせ、「伝えたいこと」を中心としたプレゼンテーションが構成できるようにした。
- ・プレゼンテーションの実施は4、5名程度のグループで行い、互いにプレゼンテーションを見合い、相互評価を行う。相互評価に当たっては「プレゼンテーションの方法及び内容について、良かった点を見つけること」を基本として実施させた。

(4) 各演習の具体的な実施方法等

演習	時間	活動内容	形態・進め方等
<b>【演習1】</b> 研修の流れの確認とタブレット型端末の操作方法について	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修のねらいと1日の動きの理解</li> <li>・タブレット型端末の操作に慣れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で実施。</li> <li>・プレゼンテーションを中心とした活動により育成を期待する能力について知らせ、意識的に活動できるようにする。</li> <li>・タブレット型端末は各自に1台ずつ貸与し、実際に操作させながら操作演習を行う。(使用機器やソフトについては後述)</li> </ul>
<b>【演習2】</b> プレゼンテーション演習①	70分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内を見学しプレゼンテーションのテーマとなる展示物を探す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で実施。</li> <li>・時間的な余裕がある場合には、博物館等の担当者に引率依頼し、館内全体を把握できるようにしてから行う。</li> <li>・テーマを決める前にも、説明員に積極的に話しかけ、情報を得ることを促す。</li> </ul>
<b>【演習3】</b> プレゼンテーション演習②	75分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの原稿となるワークシートの作成と、タブレット型端末での資料収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で実施。</li> <li>・「鉄道博物館見学ワークシート」に展示物の説明や説明員へのインタビュー等で得た情報を記入する。</li> <li>・タブレット型端末で写真撮影や動画撮影等を行い、プレゼンテーション用スライドの素材収集を行う。</li> </ul>
<b>【演習4】</b> プレゼンテーション演習③	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示物前でのプレゼンテーション実施と相互評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで実施。(1グループ4、5名)</li> <li>・プレゼンテーションの時間は一人3分とし、グループ内に計時係を置く。</li> <li>・展示場所までの誘導やプレゼンテーションを行う場所での案内等も、プレゼンテーションの実施者が行う。</li> <li>・一般の来場者の前でも実施することとなるので、来場者への配慮についても伝える。</li> <li>・相互評価の視点としては、プレゼンテーションの内容だけでなくプレゼンテーションの方法についても評価し合えるように、「プレゼンテーション評価シート」を活用する。また、評価の際には「良かった点を認める」という姿勢を基本として取り組ませ、互いに認め合える評価を行う。ただし、改善すべき点については、相手が十分に受け止められる伝え方に配慮して評価することに留意する。</li> </ul>

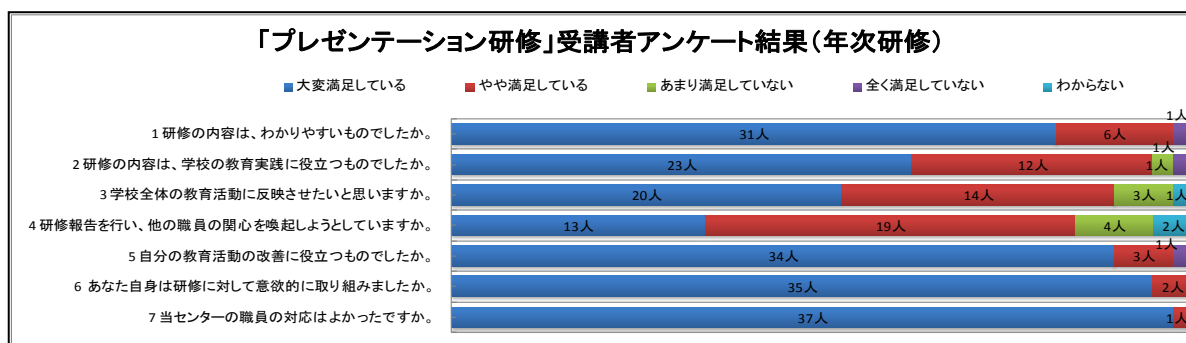
<p><b>【演習5】</b> プレゼンテーション演習④</p>	<p>60分</p>	<p>・タブレット型端末でのプレゼンテーション資料の収集とスライドの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で実施。</li> <li>・タブレット型端末で展示物の写真や動画等を撮影する。</li> <li>・タブレット型端末のプレゼンテーションソフトを活用し、スライドを作成する。</li> <li>・スライドの作成に当たっては、適切な情報量、見やすさ（文字の色や大きさ、写真等の焦点化等）、時間内に実施できる構成等を配慮しながら作成する。</li> <li>・スライドの作成時には、こまめに保存させ、ソフトが不具合を起こしたときに備える。</li> </ul>
<p><b>【演習6】</b> プレゼンテーション演習⑤</p>	<p>60分</p>	<p>・会議室等でタブレット型端末を利用したプレゼンテーションの実施と相互評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を2，3か所に分けて実施。</li> <li>・タブレット型端末とプロジェクターを接続し、作成したスライドをスクリーンや壁に投影しながら実施する。</li> <li>・プレゼンテーションの時間は一人3分とし、運営側で計時を行い、時間表示する。</li> <li>・プレゼンテーションの実施回数は、聞く側が入れ替わるようにして、用意した実施場所の回数だけ行う。</li> </ul>

(5) 実施上の留意事項

- ・運営側の司会や各グループに付く指導者は「明るい雰囲気づくり」を心がけ、研修受講者が自信を持ってプレゼンテーションを行えるように配慮する。
- ・タブレット型端末のプレゼンテーションソフトは、度々不具合により終了することがあるので、作成したスライドをまめに保存することを勧める。
- ・展示物前でのプレゼンテーションの実施に際しては、一般の来場者の前で行うので、実施する際の場所取りや声の大きさ等に配慮させる。また、一般の来場者から質問等を受けた場合には、確実に正しい解答を答えられる質問であれば答えても構わないが、自分たちの立場（博物館等の職員でないこと、研修中であること）を伝え、博物館等に迷惑がかからないようにする。
- ・会議室等でプレゼンテーションを実施する際には、実施場所の間隔が近すぎると、声が交錯してしまい聞きづらくなるため、実施場所の配置には留意すること。
- ・研修受講者が各自の場所で活動する際には、集合場所と時間について確実な連絡を行い、集合時間を厳守するように伝える。
- ・各自が撮影した写真や動画及び作成したスライド等は、研修終了時に1か所に保存し、研修受講者へ返却できることが望ましい。

(6) 研修の評価方法、評価結果

研修終了時の総括的な評価として、埼玉県立総合教育センターで共通に使用している研修アンケートを実施した。アンケート結果は、以下の通りであった。



#### 【研修アンケートの自由記述欄より抜粋】

- ・初めての試みであった「タブレットを用いた鉄道博物館での研修」に参加することができて嬉しかった。ただ、タブレットを使う授業ではなく、なぜタブレットを使う授業なのかを意識して、今後の教材研究に生かしていきたいです。
- ・短時間で要点をまとめられるか、そしてプレゼンができるのか不安はありましたが、短時間でまとめる大切さや、どうやったら相手に分かりやすく伝わるかなどを、自分なりに考え、また、他の先生のプレゼンを見て学ぶ事ができました。今後の教育活動で生かせるように努力したいと思います。
- ・初めての鉄道博物館で様々な展示を見ることができ、題材を一つに絞るのが大変でしたが、鉄道博物館の展示の仕方や体験学習の取り入れ方など参考にしたい個所が多くありました。そんな施設で身体を動かしながら初めてのタブレット端末に挑戦できとても良い体験ができました。時間の中で発表したいことをまとめあげることに苦戦しましたが、同じ初任者の発表を互いに聞き、刺激を受けながら研修に取り組みました。
- ・タブレットを使つてのプレゼンテーションということで視覚的に理解してもらふ点と言葉で説明する部分とのバランスが難しいところもありましたが、しっかりと取り組めたと思います。今後の授業作りに生かしていきたいです。

当研修プログラムに参加したほとんどの先生方が、とても意欲的に研修に取り組み（92.1%）、今後の教育活動の改善にとっても役立つ（89.5%）と回答している。かなり限られた時間内でのプレゼンテーションのための資料収集や、一般の来場者の前でのプレゼンテーションの実施などに、やや難しさを感じる研修受講生もいたようだが、研修終了時には充実感と達成感とともにプレゼンテーションについて学んだことを今後に生かそうとする姿勢が見受けられた。

研修中の評価は、プレゼンテーションの相互評価を中心に実施し、各グループに同行した指導主事からも、プレゼンテーションの方法を中心にした評価を行った。各自のプレゼンテーション実施後には、評価を記入した「プレゼンテーション評価シート」を渡し、今後の活動に生かせるようにした。

#### (7) 研修実施上の課題

- ・実施人数に、タブレット型端末の台数や、指導に充てる指導者の人数によって限りがある。1グループは多くても6名程度が望ましく、各グループに1名の指導者+会議室等に控えの指導者1名が必要である。
- ・博物館等の説明員の人数が少ないと、研修受講者がさらに詳しく知りたいことがある時の情報源が無いだけでなく、当研修プログラムのねらいの一つである、コミュニケーション能力の育成につながる活動が不十分になるとともに、プレゼンテーションの柱となる「伝えたいこと」が得られず、主体的なプレゼンテーションが行いづらくなってしまう。
- ・研修受講者は、相互評価の際に、プレゼンテーションの発表内容への評価を中心としてコメントに偏りがちなので、発表方法についての評価の視点を十分に持たせること。各グループに同行する指導者が、各自のプレゼンテーションに対して、発表方法に関する観点で繰り返し評価するコメントを伝える必要がある。
- ・タブレット型端末等にある程度触れたことのある教員や、プレゼンテーションソフトを活用したプレゼンテーションに慣れている教員に対して、さらに有効な活用方法等を具体的に示すことができる指導者としてのプレゼンテーションに対する深い知識と技術が必要である。

(8) 使用したワークシート及び機器やソフト

【見学ワークシート】…プレゼンテーション実施の際の原稿として活用。

実施日：平成 年 月 日

## 鉄道博物館 見学ワークシート(教員研修用)

所属 \_\_\_\_\_ 学校 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

### 1 興味・関心を深めよう!

「すごい!」と思う展示は?

展示名:

Q1 わかりやすかった [優 5・4・3・2・1 可]

Q2 おもしろかった [優 5・4・3・2・1 可]

Q3 高度な内容だった [優 5・4・3・2・1 可]

Q4 もっと知りたい [優 5・4・3・2・1 可]

どんな展示でしたか?

[ポイント1]

[ポイント2]

[ポイント3]

### 2 自主的・積極的に「対話」しよう!

「新たな疑問」は?

それについて「対話」しよう!

誰と対話しましたか?  
(解説者)の氏名

解説者へ一言!

### 3 感想・意見など

【評価シート】…短冊に切り取って準備。各自のプレゼンテーション実施後に、コメントとともに発表者へ手渡す。

実施日：平成 年 月 日

## 鉄道博物館 プレゼンテーション評価シート

<b>自己評価</b> ：発表者名：	展示テーマ：	評価(5段階) 素晴らしい←--→努力が必要
<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>		声の大きさ・速さ・目配り 5   4   3   2   1
		プレゼンテーションの構成 5   4   3   2   1
		分かり易さ 5   4   3   2   1
		5   4   3   2   1

---

<b>相互評価</b> ：発表者名：	展示テーマ：	評価(5段階) 素晴らしい←--→努力が必要
「発表者」への感想(良かった点やアドバイス) <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>		声の大きさ・速さ・目配り 5   4   3   2   1
		プレゼンテーションの構成 5   4   3   2   1
		分かり易さ 5   4   3   2   1
		5   4   3   2   1

---

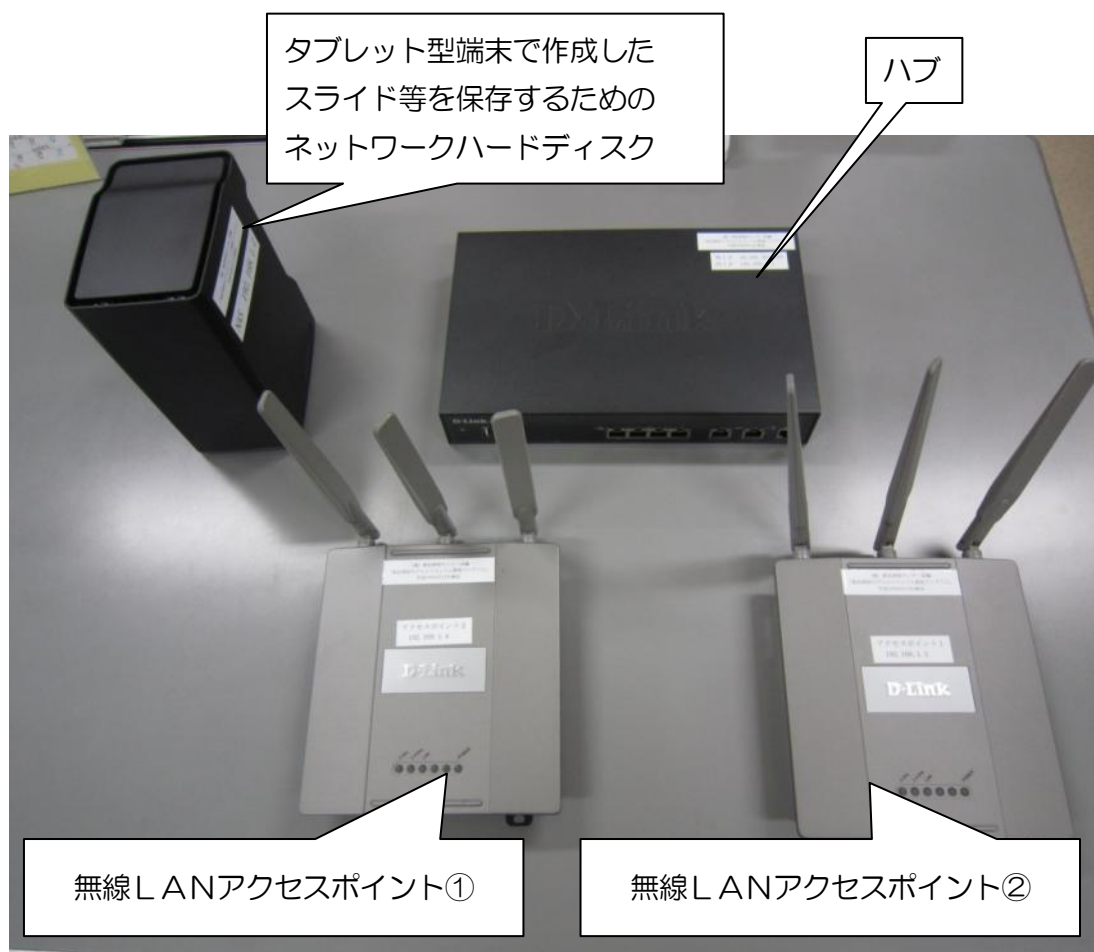
<b>相互評価</b> ：発表者名：	展示テーマ：	評価(5段階) 素晴らしい←--→努力が必要
「発表者」への感想(良かった点やアドバイス) <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>		声の大きさ・速さ・目配り 5   4   3   2   1
		プレゼンテーションの構成 5   4   3   2   1
		分かり易さ 5   4   3   2   1
		5   4   3   2   1

---

<b>相互評価</b> ：発表者名：	展示テーマ：	評価(5段階) 素晴らしい←--→努力が必要
「発表者」への感想(良かった点やアドバイス) <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>		声の大きさ・速さ・目配り 5   4   3   2   1
		プレゼンテーションの構成 5   4   3   2   1
		分かり易さ 5   4   3   2   1
		5   4   3   2   1



【使用機器等】 ※機器等は、教員研修センター「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の委嘱金により購入。



※ケーブル類の接続はしていない状態です。



【使用ソフト】

- ・プレゼンテーション用のスライド作成→「シンクフリーモバイルオフィス」
- ・ネットワークハードディスクへのデータ保存等→「E Sファイルエクスプローラー」

### Ⅲ 連携による研修についての考察

今年度の当研修プログラムは、鉄道博物館で実施した。埼玉県と鉄道博物館は、前述の通り様々な事業において連携を図っており、その中の一つの連携・協力事業としての実施であった。連携・協力をを行うに際しては、鉄道博物館の多大な理解と協力を支えられているものの、互いの組織にとってのメリットがある関係でなければ、継続的な連携事業の維持や発展的な事業の推進は難しい。そのためには、互いの組織の目的や具体的な計画についての共有化や、新たな事業に対しての平等なスタンスを維持することが肝心であり、定期的な連携協議会等の開催は重要な共通理解を図る場である。

研修を博物館等の連携機関で実施することの最大のメリットとして「本物に触れながら学ぶことができる」という点がある。情報化社会の発展に伴い、インターネットを利用すれば、手軽に「だれでも・どこでも・いつでも」あらゆる事物の画像や動画、説明資料等を得ることができるようになった。それは便利なことではあるが、やはり「本物」から学ぶことは、様々な面で教育的価値が高く、深い学びへつながると考えられる。「本物」とは、展示物は勿論のこと、博物館等の説明員等の高い専門性をもった人材も含んでいる。説明員等のもつ高度で専門的な内容を、その分野に対する「思い」を通しながら分かり易く説明してもらうことにより、研修受講者が多くのことを体験的に学べると考える。

当研修プログラムの今後の課題として、実施場所の拡大がある。当研修プログラムが実施可能な博物館等の条件として、「県内であること」「集合しやすい場所であること」「展示物等の内容や量が教員研修として適切であること」「会議室等の部屋を借用できること」等がある。来年度以降の専門研修（教員の希望で参加する研修）での実施も視野に入れ、新たな実施場所の選定を行っていく。

また、タブレット型端末の維持管理も課題の一つである。タブレット型端末は、その携帯性のよさから紛失の可能性や落下等による破損の可能性が高く、これまで維持管理していたノート型パソコン以上に管理上の配慮を要する。内蔵バッテリー劣化等の機器自体の消耗に対する管理も短い期間で必要になってくることが予想されるため、維持管理に必要な予算確保に当たっては、見直しをもって早めに行う必要がある。

### Ⅳ その他

[キーワード] プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力 タブレット型端末  
博物館 鉄道博物館 年次研修

[人数規模] C. 21～50名

[研修日数(回数)] C. 4～10回

#### 【問い合わせ先】

埼玉県立総合教育センター

情報教育推進担当

〒361-0021 埼玉県行田市富士見町2-24

048-556-3444 (FAX 048-556-3396)

Email [p741221a@pref.saitama.lg.jp](mailto:p741221a@pref.saitama.lg.jp)

URL <http://www.center.spec.ed.jp/>